



2025年4月12日(土)
13:30 開場/14:00 開演

【入場料】

会員 4,500円(座席指定可)

一般 5,000円

学生 2,500円(全席自由席)

<プログラム>

シューベルト:

ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ 第2番
イ短調 D.385
華麗なるロンド ロ短調 D.895
高雅なワルツ集 D.969 (ピアノソロ)
ヴァイオリン・ソナタ イ長調 D.574



ヴァイオリンとピアノのためのデュオ作品全曲演奏会

<https://x.gd/Zpu53>

シューベルトの詩情

Vol.
1

©Fumitaka Sait

鈴木舞 × 川口成彦 シューベルト・シリーズ開幕!
シューベルトの詩情が息づく—— 特別な二人が紡ぐ、極上の室内楽

川口成彦

川口 成彦 (KAWAGUCHI Naruhiko) Piano

1989年に岩手県盛岡市で生まれ、横浜で育つ。
第1回ショパン国際ピアノコンクール第2位、ブルジェ国際古楽コンクール最高位、第1回ローマ・フォルテピアノ国際コンクール優勝、フレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭(ワルシャワ)をはじめ欧州の音楽祭にも出演を重ねる。

協奏曲では18世紀オーケストラ、Johann Orkiestra Historycznaなどと共演。2018年にはロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団のメンバーと共に室内楽形式によるピアノ協奏曲のリサイタルをオランダにて開催した。

またモダンピアノでは2016年にアメリカにて世界的オーボエ奏者ニコラス・ダニエルと共にブーランクの「オーボエ・ソナタとピアノのための三重奏曲」の最終稿の世界初演を行っている。東京藝術大学/アムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。

フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガールの各氏に師事。

欧州のレーベルからリリースされたCDに加え、2018年には自主レーベル MUSIS を立ち上げ、第一弾としてバルトークの「2台のピアノと打楽器のためのソナタ」をアナログレコードでリリースする。

またスペイン音楽をこよなく愛し、2019年にCD「ゴヤの生きたスペインより」を発表する(レコード芸術/朝日新聞特選盤)。2020年にはACOUSTIC REVIVEより「ショパン夜想曲&小品集」を発表。

第46回日本ショパン協会賞受賞。

鈴木舞 &

鈴木 舞 (SUZUKI Mai) Violin

東京藝大附属高校、同大学卒業。スイス、オーストリア、ドイツにて研鑽を積み、ディプロマ、ドイツ国家演奏家資格を取得。

ヴァーツラフ・フルム国際ヴァイオリンコンクール(クロアチア)第1位、オルフェウス室内楽コンクール(スイス)第1位他、多くの国際コンクールで優勝、入賞を重ね、ソリストとして欧州、アジア、南米等でツアーを行う等、世界各地でリサイタルやオーケストラに招かれる。

国内では、宮内庁主催皇居桃華楽堂での御前演奏会に出演、シャネル・ビッグマリオン・デイズ・アーティストに選出された他、サントリーホール、王子ホール等の主要なホールで公演を重ねている。

これまでに、ヨルマ・バスラ、イヴァン・レブシッチ、ニコラス・ミルトン等の指揮で、スイス・ローザンヌ室内管、フィンランド・クオピオ響、ドイツ・ホーフ響、チェコ・モラヴィアフィル、読売日響、東響、日本フィル等と協奏曲を共演している。

キングレコードよりデビューCD「Mai favorite」がリリース、日経ミュージックセレクションCDでは東響とベートヴェン、マスネを収録した。2025年3月にセカンドCD「翼」をリリース。

使用楽器は株式会社atsumariを通じて貸与されている1682年製 Nicolo Amati "Grand Amati"



123
Shibuya Mitake Salon (vol.175)

©Yukiko Shibuya

鈴木 舞&川口成彦 シューベルトの詩情 Vol.1 ヴァイオリンとピアノのためのデュオ作品全曲演奏会

2025年4月12日(土) 開場13:30/開演14:00

【入場料】

会員 4,500円(座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円(全席自由席)

鈴木舞 × 川口成彦 シューベルト・シリーズ開幕! シューベルトの詩情が息づく——特別な二人が紡ぐ、極上の室内楽

シューベルトという作曲家は、音楽のなかに言葉にならない詩情を宿らせる天才だ。

若き詩人が静かに語りかけるような清澄さに、シューベルト特有の叙情と陰影が
滲むソナチネ第2番 イ短調 D.385。

舞曲の高揚感と晩年の円熟が交錯し、単なる華やかさととどまらない奥深さを
秘めた華麗なるロンド ロ短調 D.895。

ワルツという形式を超え、洗練と気品に満ちつつも、奥に秘めた静かな哀愁が
漂う高雅なるワルツ集。

そして、若き日のシューベルトが音楽の喜びに溢れ、その歓びをそのまま譜面に
書き留めたかのような、明るさと軽やかさが印象的なソナタ イ長調 D.574。

これらの作品を通して、シューベルトの音楽の本質が改めて浮かび上がるこ
たろう。

さて、第1回から"本気度"が伝わる、シューベルトの室内楽ならではの輝き、熱
情、品格、抒情性が凝縮された、非常に完成度の高いプログラムだ。

「シューベルトは表現が難しい」とよく言われるが、その理由を一言で表すのは
難しい。

彼の音楽には、ただ美しい旋律があるだけではない。

シューベルトの心の機微に寄り添い、それを表現することこそが、演奏者に求め
られる。

それは、言葉にならない想いが、時間の流れの中でふと立ち止まり、響きとなって
私たちに語りかける瞬間。

どこか内省的でありながらも、決して閉じたものではない。

まるで、孤独の中にあっても、人が何かを語らずにはいられないように——

かと思えば、物静かなシューベルトの内に秘められた芸術性が、突如として爆
発するようなデモーニッシュな一面を見せることもある。

シューベルトは決して単純な作曲家ではないのだ。

底知れぬ魅力を持つシューベルトの音楽を、鈴木舞 × 川口成彦デュオがどう
表現するのか——期待は高まるばかりだ。

鈴木舞氏のヴァイオリンは、ダイヤモンドの粒が踊るような音色で、時に情熱的に、
そして夢見のように繊細に、表情豊かに歌いあげる。

作品ごと真剣に音楽に向き合い、時に大胆に演じ切るその姿は、まるで女流剣
士のよう。

シューベルトの音楽は奏者によっては単調に聴こえてしまうこともあるが、彼女の
演奏はその真逆。

聴き手を最後まで引きつける力に満ちている。

一方、川口成彦氏のピアノは、精妙なニュアンスに満ちたフレーズの美しさが際
立ち、対話を重んじた響きで会場を包み込む。

彼のピアノは、語るように歌い、歌うように語る。

シューベルトの音楽が持つ詩情と妙にフィットするのは、偶然ではないだろう。

その響きはまるで、シューベルトが部屋の片隅で即興を弾いているかのような、親
密な空間を生み出す——

芸大時代の同級生である二人のアンサンブルは、まさに息がぴったりだ!
二人とも本番だからこそ生まれる"インスピレーション"を大切にす演奏家。

だが、そもそもそのインスピレーションを与えられる存在であることこそが、彼らの天
賦の才なのだ。

単なる技巧の見せ場ではなく、作品の奥にある「語られざるもの」に耳を澄ませ
るとき、そこにはきっと、シューベルトの音楽が持つ「言葉にならない詩」が満ち、無限
の広がりを感じることができるだろう。

このシリーズでは、そんなシューベルトの真髄を、じっくりと味わう時間となることだろう。

123
Shibuya Mitake Salon (vol.175)



8th
ANNIVERSARY



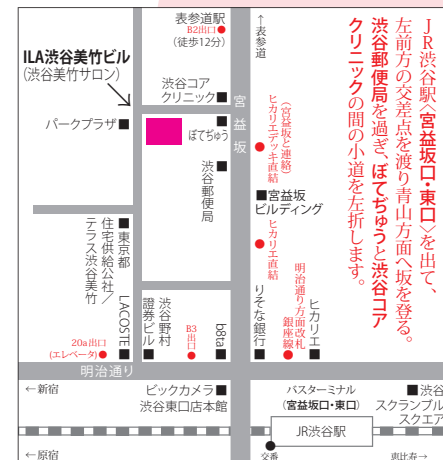
世界に羽ばたく才能あふれる
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの演奏家たちが、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
渋谷美竹サロン(美竹清花さろん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中!



誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷 1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03(3409) 0188



公式Webサイト